

NPO:法人りあん
地域生活
サポートセンター

じゅぶ ぬぶぼん

キャベツ焼き屋台



たまる屋 オープン!



特定非営利活動法人りあん 地域生活サポートセンターじゅぶ通信「ぬぶぼん」

第29号 2019年9月

週末の夕方になると何やら良い匂いが……
5月からじゅぶ事務所前テントにて「キャベツ
焼き屋台 たまる屋」が開店しています。
開店すると匂いに誘われ道行く学生さんや
ご近所さんが寄ってくれ、仕事帰りのみなさん
の憩いの場となっています。
営業は毎週金曜日の16時～20時です!
顔出しNGの店長がお待ちしております。
是非一度お立ち寄りください!!



**貸切営業
受付中!!**



2018年度 事業活動収支計算書

2018年4月1日～2019年3月31日 (単位:円)

	2018年度予算額	2018年度決算額	差異	備考
収 入				
1会費収入	66,000	50,000	-16,000	
会費収入	66,000	50,000	-16,000	団体3 個人22
2寄付金収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
3助成金収入	232,656	232,656	0	
助成金収入	232,656	232,656	0	市より相談事業家賃補助
4事業収入	105,895,000	105,216,827	-678,173	
居宅支援事業収入	82,800,000	81,789,464	-1,010,536	居宅・重訪・同行援護・行動援護
外出支援事業収入	12,500,000	13,805,030	1,305,030	各市 移動支援事業
相談支援事業収入	5,850,000	4,726,818	-1,123,182	市委託費・認定調査・計画作成
福祉輸送事業収入	1,950,000	2,099,515	149,515	
私の居宅支援事業収入	10,000		-10,000	ちゅぶ利用なし
研修開講事業収入	130,000	100,000	-30,000	重度訪問介護研修受講料
シェアハウス事業収入	2,655,000	2,696,000	41,000	家賃・共益費・体験利用料
5雑収入	30,000	61,738	31,738	
雑収入	30,000	61,738	31,738	外部講師料・預金利息
事業活動収入計	106,223,656	105,561,221	-662,435	
支 出				
1人件費支出	81,628,100	83,962,389	2,334,289	
役員報酬	3,401,600	3,401,600	0	現場役員報酬
給与手当	59,300,000	61,776,704	2,476,704	常勤・非常勤・パート
賞与	9,296,500	9,190,101	-106,399	常勤5ヶ月分 パート1ヵ月分
通勤費	2,530,000	2,369,165	-160,835	常勤・非常勤
法定福利費	7,100,000	7,224,819	124,819	社会保険・労災保険・雇用保険
2事務費支出	1,400,000	1,729,971	329,971	
福利厚生費	950,000	1,005,586	55,586	退職金共済・健康診断
研修費	400,000	602,235	202,235	外部研修受講料、交通費
諸会費	50,000	122,150	72,150	各団体加盟会費など
3事業費支出	20,563,040	16,325,334	-4,237,706	
旅費交通費	350,000	234,500	-115,500	電車・有料道路・駐車場代
消耗品費	1,500,000	600,441	-899,559	パソコン・事務用品・衛生用品
印刷製本費	250,000	183,788	-66,212	記録表・通信・封筒・名刺
水道光熱費	880,000	881,929	1,929	水道・電気・ガス・灯油
広告費	600,000	305,208	-294,792	広告・ホームページ管理費
車両費	950,000	915,189	-34,811	車検・点検・タイヤ・修理
燃料費	1,200,000	1,363,112	163,112	ガソリン代
通信運搬費	1,000,000	824,519	-175,481	電話・ネット通信費・郵便
会議費	50,000	75,876	25,876	会場代、お茶代
新聞図書費	15,000	12,124	-2,876	書籍・DVD購入
手数料	180,000	150,780	-29,220	振込手数料
損害保険料	1,150,000	1,108,604	-41,396	自動車・福祉サービス・火災
賃借料	7,252,400	7,199,880	-52,520	事務所・駐車場・シェアハウス
租税公課	150,000	142,550	-7,450	固定資産・軽自動車・印紙
リース料	550,000	570,982	20,982	プリンタ・介護請求ソフト
食料費	100,000	79,781	-20,219	研修用食材
支払報酬	1,440,000	1,630,734	190,734	労務・会計・セコム・講師・リフト
交際費	100,000	35,168	-64,832	
寄付金		0	0	
修繕費	30,000	0	-30,000	
雑費	0	10,169	10,169	
予備費	2,815,640	0	-2,815,640	
4減価償却費	2,632,516	2,944,226	311,710	
減価償却費	2,632,516	2,944,226	311,710	車両 設備 器具
事業活動支出計	106,223,656	104,961,920	-1,261,736	
事業活動収支差額	0	599,301	599,301	
法人税・住民税及び事業税	72,200	1,121,927		
当期正味財産増加分	-72,200	464,271		
前期繰越正味財産額	34,703,571	34,703,571		
次期繰越正味財産額	34,631,371	35,167,842		

■全体の状況

今年度は特に、以下の2点を方針として掲げた。

- 1.「当事者に学ぶ」を意識した研修やセミナー開催…啓発活動として開催したセミナーはもちろん、内部の研修においても、この方針に合わせた内容を多く開催できた。
- 2.「精神障害」の理解を深める…内部研修において、意識的に開催出来ている。また、意図したものではないが、ばばるでへの参加者など、精神障害者との関わりが、増えている実感はある。

■居宅支援事業・外出支援事業

必要に応じて、24時間、365日の支援を実施している。日常的な生活の支援だけでなく、趣味の活動の支援、旅行の支援など、様々な部分で関わる事が出来た。特に遠方では、モンゴルへの研修に付き添うこともあった。利用者数は少し増えているが、利用時間数は微減である。

近年、女性従業員の不足が続いていたが、年度途中、登録ヘルパーより2名、常勤への登用があった。現状、常勤の求人は停止している。

福祉輸送に使用する車両の保有台数は8台であり、年度中に入れ替えが2台あった。

従業員数(実働)	(人)
	月当たり
常勤ヘルパー	8～10
パート	2～3
非常勤ヘルパー	58～66
休職中(産・育)	1～2

利用者数(人)	(人)
	月あたり
大津市	51～63名
その他県内	20～24名
県外	0～1名
合計	73～83名

・グループ支援のみの利用は人数にカウントしていない。

利用時間数(時間)	(時間)
	合計
身体介護	2,001
家事援助	527
通院介護	341
行動援護	238.5
同行援護	441.5
重度訪問介護	20,193
移動支援	4,800.5
グループ支援	332
合計	28,874.5

■相談支援事業

新たな依頼もあるが、対応し難い状況となっている。市内の相談員が不足している状況自体を市全体の課題として訴えている。相談内容としては、申請書の書き方が分からないというような軽微なことから、住まいや相続など、重大な相談事まで、多岐にわたる。当方で解決出来ない件については、専門機関との連携で対応している。

■研修開催事業

より多くのヘルパーを確保するため、重度訪問介護従業者養成研修を開催した。従前より、講師・講師補助として障害当事者の協力を得ており、講義、実習共に、より実践的な内容になるよう検討を重ねつつ、幅広い障害当事者の協力を得ながら、実施している。

■交流事業の開催

2015年度より開始した「つどい処 ばばるで」について継続して実施している。都度、10～20名程度の参加者があり、自由に出入りがある。土曜日開催の方が、参加者は多い傾向である。開催時は、常勤スタッフ一名と、ボランティアにより運営しているが、参加者が自主的に手伝って下さることも多い。参加者同士、日常とは違った交流をされたり、個々の時間を楽しむなど、様々に過ごされている。稀ではあるが、近所の方が通りがかりに立ち寄って下さることもある。

また定期的な「ばばるで」の開催以外にも、ほぼ毎週土曜日は2階を開放し、ボランティアによる交流の場が開かれており、同様に参加者が調理をし、提供して下さっている。

■広報・啓発事業

「地域の方に障害者の生活を知ってもらい、身近に感じてもらうこと」を目的に、「当事者が語る人権セミナー」をテーマとして、地域一般向けに講座を開催した。前半は、あそどっぐさんのトークショー、後半は地域の障害者(当法人の運営委員)もステージに上がり本音トーク。前後半ともに、笑いを交えつつも、障害者の生活実態や本音を啓発する機会となった。

防災に関して、地域住民と共に考えたいという思いから、学区で開催される防災訓練に参加した。幸いにも、福祉避難所での訓練を初めて実施されるタイミングと重なり、障害当事者(車椅子)の参加を歓迎していただいた。実際に参加してみると、様々な課題が見え、行政関係者に伝える機会にもなり、ありがたかった。具体的には、以下である。

- ①福祉避難所の開設までに、最低3日は要する。→ その間、如何に過ごすのか？。
- ②大津市内、各指定避難所では、どこにも発電機は備えていない。→ 電源の必要な方の不安。

■シェアハウス運営事業

一昨年度より運営を開始したシェアハウスであるが、年度途中より住人が1名増え、4名で満室となっている。その後も入居の希望はあり、他所に同様の物件もなく、不足している状態である。

体験室の利用は少ない。ほぼ災害時の利用であり、当初の想定とは違うが、役に立っている。

■ほか、各種研修への参加・実施など

今後の主な方針

■隣接するテナントを借りる目途が立ったため、予てよりの課題解決に役立てたい。主な課題は以下。

- ・集団が苦手、人間関係など何らかの課題を抱え、日中の行き場を探す方が多い。
- ・仕事後など夕方の時間を持て余す方が多い。
- ・数年前より模索している児童クラブ事業への足がかりとして、近所の親子と関わりを持ちたい。
- ・事務所が手狭である上、車椅子などでも利用しやすいトイレが2階にしか無い。

これらの課題に対し、つどい処ばるでを1階に移し、日中の空き時間は貸し会議室とするなど地域とのつながりの場とすること、そして2階は日中や夕方の小規模な活動の場(大津市日中一時支援)とすることを基本として再構築したい。

■居宅介護について、これまでから利用されている方が介護保険の対象となり移行されるため、共生型介護保険の指定を受けることで、継続して利用できるよう対応する。

福祉職の人材不足が言われて久しいが、何とか従業員を確保出来ている。今後も離職を防ぎ、態勢を維持したい。

■広報啓発について、「当事者の語る人権セミナー」を前年度に続き、企画する。防災訓練についても、今年度も継続して参加する他、他地域での参加や、より多くの障害当事者の参加を呼びかけたい。

■シェアハウスについて、入居者が4名と満室になったため、次の展開を検討しなければならない。今後も、障害のあるなし関係なく、様々な入居者により、助け合いの関係がうまれることを期待する。

※2018年度事業報告ならびに会計報告、及び監査報告、2019年度事業計画ならびに予算の全文につきましては、事業所で閲覧できる他、過去の分も含め、ホームページでもご覧いただけます。

なが～いあと書き？ 近況報告？

今回のぬぷぼんは、いつもと少し趣向を変えてじゅぶで働く面々が書きたい事を書こうという事になりました。長～いあとがきのような文章もあれば近況報告もありで、人それぞれです。文字が多くなり読みづらいかもわかりませんが、お付き合い下さい！

『続けられるということが、大事』

吉田 佳浩



最近、細くなったといわれる事が増えてきました。そうです、ダイエットです。

という聞こえはいいのですが、きっかけとしては社会人になってからというもの飲んで、仕事、飲んで、仕事ととても身体を気遣った生活をしてこなかったのが健康診断の数値も毎回ダメだったので、一回ちゃんと考えてみよう。

昨年から一人暮らしははじめ何か変えてみようと考え、まず食事を見直してみました。

みなさんは1日の消費カロリーと自分が摂っているカロリーがどれくらいかって知っていますか？数字を調べだしてから、あれやこれやカロリーを見てびっくりする事が多くて目が回る事が多々ありました。

とりあえず栄養バランスとカロリーオーバーを気にしつつ日々すごしてきましたが…

全っ然物足りない！もうほんと全然です。

ラーメン、酒、焼肉etc、食べたくなりますよ！！

食べても大丈夫にするにはどうするか。

…そうです。運動です。



というわけで、クロスバイクを買い通勤や休日は自転車を漕ぐ。

意外とカロリー消費が多く、食事制限しすぎることなく自分のペースで続けられるようになり僕は飲みとラーメンをあきらめずにすみしました。

長々とここまで書きましたが、

結局は『自分が無理なく続けられる事が、大事』ということ传达了かったわけで。

無理してしまうといつか崩れてしまうかもしれないという怖さがあり、

やっぱり自分のペースで続けていけることが大事だなと…

どっかの自己啓発セミナーみたいな文章ですが、昨年から続けてみて吉田なりに思ったことでした。

木村佐智子



10才の時好きだったもの。ドッチボール、キャンディキャンディ、小林くん。
クラスの子に、『小林くんと結婚したら小林さちこやん。』と言われたのがきっかけやったや
ろか。

20年後30才の私は8才の息子と2人暮らしをしていた。この頃学校の先生から発達の遅れがあ
るように言われ、私の判断で子供の事を決めるは不安だったけれど、旦那がいなくて気弱にな
ったのはこの時だけだったように思う。生活が慌ただしくて子供の成長を見逃してしまった事
が今になってひどく悔やまれる。

そして、今年の夏人生の第2ステージにあがり50才になれた。

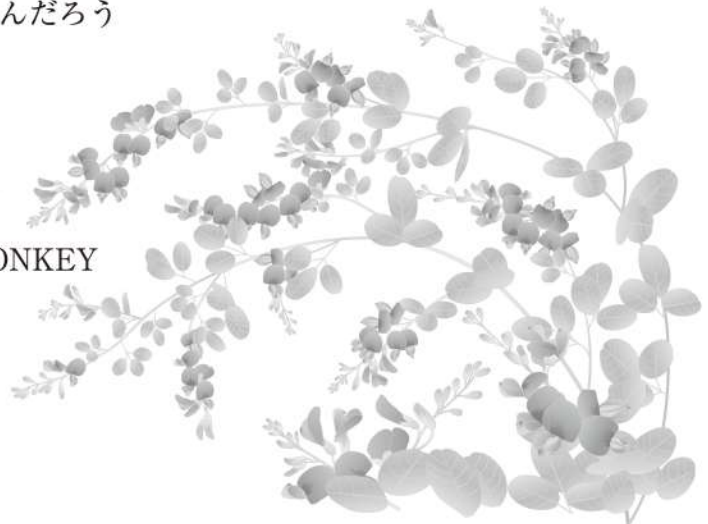
年を取ると花鳥風月を順番に愛でるようになっていくと聞く。
昨年あたりから花壇に花を植えるようになり……とうとう始まってしまった。

どこに置いたかわからない。
名前が出ないから会話が止まる。
みなさんの温かいフォローのおかげで今日も凹まず過ごせています。
人生の折り返しがスタート。
「老い」をいかに手玉に取り楽しむか模索中。
てか、このボケまくりの毎日がけっこう笑える。

来た道で帰る人 別の道の人
過ぎてしまえば黄金時代はいつだったんだろう
今がそれだったりね

NEWS23 エンディング曲
"Changes Far Away"
THE YELLOW MONKEY

さあ～て、
お楽しみはこれからこれから。



井上 紋佳



じゅぶの常勤になってはや半年経ちました！
井上です！

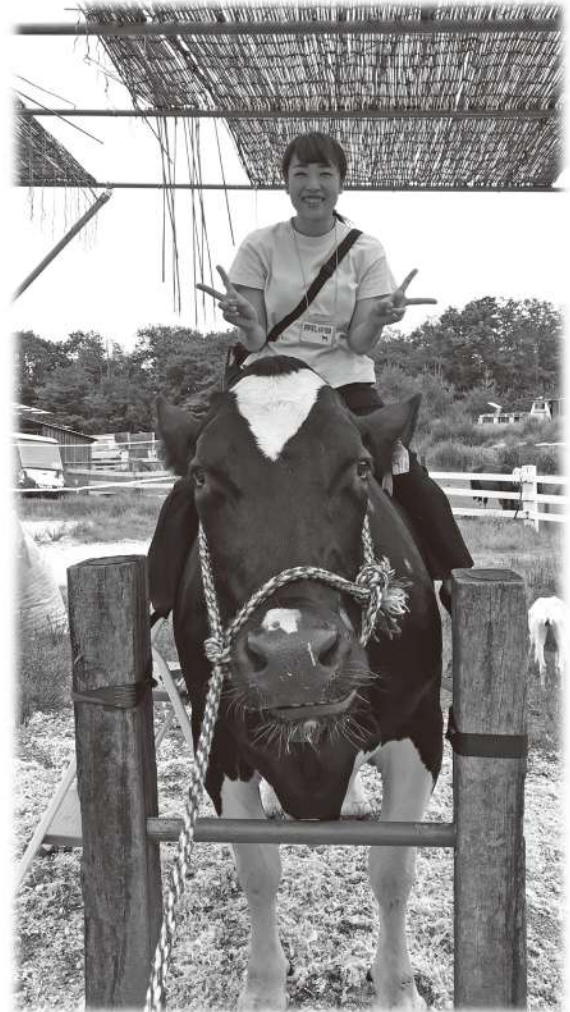
もんちゃんというあだ名がだいぶ浸透してきたのでは？と思っています。

紋佳の紋(もん)をとってもんちゃんです！！是非覚えてください！

目標としていた毎月映画、岩盤浴はほぼ達成。4月にはハーフマラソン完走し、年末にもう1度ハーフマラソン、年明けにフルマラソン挑戦予定です。

本業のバスケットボールも週2回の練習は欠かさず、月に1度ほどは試合にも出ています。これに読書を付け足そうとしましたが、3日で挫折したので却下。新しいことに挑戦したいと思っていますが、時間と体がついてこないのではしばらくはこんな感じで様子見です。とか言いつつ、来年1月に新たな資格取得を目指していますので、勉強のほうを頑張ろうかと思えます(笑)

これから夏本番、平均体温36度越えの井上が暑苦しく皆さんと関わっていこうと思っていますのでどうぞよろしくをお願いします！！



最近思うこと

竹花 育子



近頃、ニュースで高齢者のブレーキの踏み間違いに因る交通事故をよく耳にする。日頃からよく知っている身近な場所で、保育園児が犠牲になるという痛ましい事故も起きた。私自身、昨年2月から下肢緊張が強まり、膝が曲がらず一本の棒のようになり動けなくなったり、バランスを失って後ろに転倒したりする事が度々ある。職場で倒れた時は、幸い後ろに何もなかったが、家で倒れた時は、窓ガラスを割ってしまった。それ以来、どこに行くにも父の運転に頼っている。仕事への行き帰り、リハビリや診察のための通院……。ちょっとコンビニまで、ちょっとそこのポストまで、そもそも、いつ動けなくなるか分からないから、怖くてひとりで

気軽に外出する事が出来ない。

さて、父はというと、現在73歳。「あと10年は頑張る。」と言ってくれているけれど、これだけ事故や免許返納の話題を見聞きして、乗せてもらっている私としては、有り難い反面不安もある。何故か、私が車に乗るとよく事故を見かける。先日は、帝産バスとバイクの接触事故現場に遭遇した。

「そう遠くない時期に免許返納だよな。そうなった時の事を考えないといけないな。移動支援は、通勤には使えない。ほんの5分の送迎をしてくれる事業所があるだろうか…。通院はどうだろう。今は左手にロフトを突いているけれど、両手にした方がいいのだろうか。両手になると荷物が持てないな、こけた時に肘が杖にロックされて上手くこけられないような。あるいは、車椅子にした方がいいのだろうか。坂道は上れるのか、車通りが多い道はどうする…。」とりあえず、ブレーキ踏み間違い防止装置の購入を提案してみるか。

「迷う紫陽花 七色変わる 色が定まりゃ花が散る」人の一生は悩みが尽きない。あっちに行ってみたり、こっちに行ってみたり。人生とはそもそもそういう色変わりのするものだ。新聞に私と同じ40歳の女性が、紫陽花の七変化を愛で、悩みをエンジョイする人生を過ごすのも悪くないと投稿していた。悩みをエンジョイするにも日々の心の糧がいる。私は、全力投球しては自滅する人生はもうよい。今はそれより穏やかに毎日を送りたい。

門脇 裕子



孫はホンマにかわいいのお話です。

どんなに疲れていても孫が来てくれると元気になります。

どんな栄養ドリンクよりも効き目があります。目に入れても痛くないと世間でよく言いますが、その気持ちわかります。

先日、娘の仕事がどうしても遅くまで終わらないから、代わりに保育園に行ってる孫をヘルパーさんとお迎えに行きました。

「ママの代わりにばあばにお迎えにきてほしい」とのご指名があったので私は大喜び。

園の外で孫が出てくるのを待っていると、沢山の子どもたちが「なんでこんなん乗ってるん?」とか「なんであるけないの?」とか「なんで」「なんで」と興味津々。

「ちっちゃい頃病気になって歩けなくなったから、この車椅子でお出かけしてるんやで」、「車椅子で電車に乗って遠いところにも行くよ」などおしゃべりしていると孫が出てきて、「ばあば!」っと嬉しそうに来てくれて、なんだか疲れもふっ飛んでほんわかしたひと時になりました。子どもは純粋でホンマにかわいい!!

こうやって小さい頃から障害のある人など色んな人と関わりを持つことは偏見を無くすためにも大切なことだと思います。

これからも孫と一緒に沢山お出かけしたいと思っています。



パートとしてじゅぷに戻ってきてからあっという間に一年が過ぎました。つい最近年越ししたと思っていたら、気づけば9月。時が経つのは本当に早いですね。

本当はじゅぷの畑で育てている枝豆について書こうかなと思っていたのですが、新たに書きたいなと思うことができました。

ここ最近自分自身を見つめなおす機会がありました。

というのも、私は今まで自分自身について深く考えたり、絶対に譲れない自分の意志というものを強く持ったり人に伝えたりする事はありませんでした。

人の流れに沿って、ふらふらと、人に合わせて集団生活を送ってきたという感じです。

本当はこうしたいのに……。こんなんでいいのかな……。と思っている事があっても、それを特に主張するわけではなく、心の中で思っているだけで。

人間関係においても誰にでもへらへら笑っていれば周りに敵は作らないだろうし、とりあえず自分にとって無難、平凡な環境でいられればいい。という考え方でした。

要するに自分の意思が無い究極の八方美人。もちろん自覚済みです。

ずっとこういう考えだったので、今まで人との関わり方にあまり違和感も持たずに適当に毎日を過ごしていました。ですが、ふと、こんなふわふわした生き方でいいのかなと思う瞬間があった事。そして人に改めて指摘してもらって気付く事。自分自身自らの振る舞いを客観的に考えてみて気付いた事、実際に自分の身の回りの人間関係を見て感じるものがある事。

色々なきっかけがあって、20代を折り返した今、こんな八方美人で人に流されて生きていく事しかできない自分を変えたいと決意し、現在行動しているところです。

自分にとっての特別や大切と感じるもの。

それは人、物、考え、気持ちなど色々ありますが、今までの自分の生き方や考え方では自分が大切だと感じるものを何一つとして守りぬく事ができない。まさにその通りです。

20歳を超えると性格なんて変わらないとよく言われます。

そして『自分』を持つこと、貫き通すことは今の自分では確かに難しい事だと思います。

でもきっと得られるものは今までより遥かに大きいはず。

そう信じて、きっかけをくれた人や関わってくれている人たちに感謝して、大きい壁を越えてみせようと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございました。皆様、どうかストレスフリーな一日を。



あらためて自己紹介でもしておきましょうか。

やけに日に灼けた相談員、染井です。

ここ数年はランニングが趣味で、特に山を走るのが楽しいです。トレーニングのため裸足で走ることもありますが、いつか不審者として通報されるのではないかと心配です。

身体を動かすのが好きですが、工作なんかも好きで、今は段ボールでミニ四駆のサーキットを制作中。買えば15,000円を1,000円程度で済ませます！

家事も好きです。特に洗濯は自分がやらないと気が済まないのです。庭の草引きとか植木の剪定とかも好きです。気が滅入った時は、草引きするとスッキリしますね。

声が小さいのが人生の課題です。頑張っても大きな声が出ません。騒がしい店内で注文のために店員さんを呼ぶ場面とか、とても苦手です。誰か助けて欲しいです。

お酒は好きですが、以前ほどは飲まなくなりました。基本は発泡酒ですが、最近は安ワインを氷で薄めて飲んでます。それで充分です。

スポーツで競い合うのは好きですが、日常、あらしい事は好きではありません。自分の意見を強く主張するよりも、とりあえず相手の意見を聞く日々です。それでモヤモヤすることもあります。強く言ってしまうと、きっと後悔は尚大きいでしょう。

過去を振り返ってみると、

小学生の頃、“将来の夢”を問われる度、何も浮かばず、友だちの夢を真似てました。

中学性の頃、通訳者か、車関係の仕事をしたかった気がします。

高校生の頃、航空技術者や、建築士に憧れました。いやそれより女子にモテたかった。

大学生の頃、「とにかく正しい道を歩きたい」とかいう現実逃避のために卒業が危ぶまれました。

最近になり、消防士に憧れるようになりましたが、もう遅いですね（笑）

結果、今じゅぶに居ることは幸せです。

そりゃあ、たまには嫌な事もありますが、辞めたいとまでは思わないので。

皆がそうであれば良いですね。



ここ何年か、夏の京都の陶器市に足を運んでおりました。

自分の欲しい形のお皿を探すためです。

しかし、たーくさんの食器が並ぶなか、私の探しているものはありませんでした…

そこで「もう、これは自分で作るしかない！」となりまして念願の陶芸を習いはじめました。

念願と言えど、いざ！土を前にすると、いったい自分に何が作れるのか…

初めて造ったものは、手づくり感満載のボコボコでめちゃくちゃ重たい縄文式土器のような中鉢でした。

なんと…むつかしい事でしょう！！！！

その日から約3年、そろそろ腕も上がったので、ついに！あの時欲しかった形のお皿を造ってみることにしました

作品は、まあまあ、思うようなものが出来ましたが、さてはて、焼き上がってみるとやはり手作り感満載のしろもの、と化していました。

まだまだ理想形にはほど遠い感じですがもう少し、陶芸教室に通って、いつの日か理想のお皿を造りあげたいと思っている、今日このごろです。。



前略、病床より



6月から7月にかけて体調不良のため、2回休みをいただきました。

ご迷惑をおかけした皆様に、この場を借りてまずお詫び申し上げます。

大変申し訳ありませんでした。

齢42を過ぎ、自分の健康とも真剣に向き合わなければいけないのかなと思います。

思えば、恥の多い人生を送ってきました。大病をする事もなく、この年まで生きてきたのですが。若い頃から、酒・タバコをやり続けたつげが、ここに来て回ってきたのかもしれない。

尿酸値が高く、それを改善する為5月末から薬を飲み始めました。通常何か薬を飲み始めた時

には、1ヶ月後くらいに血液検査をして、効果があるかと副作用がないかを確認するそうです。僕もその通り、1ヶ月後に検査を受けました。その結果、正常値が60から280とされる、CPKという値が40000という値をたたき出しました。即入院。すごく簡単に言うと、体中の筋肉が溶けていっている、又は溶けてしまったという状況だったそうです。筋肉が溶ける・・・数値自体は、かなり危険な数値だったらしいのですが、自覚症状はあんまりなくて。入院中も早く家に帰りたくて仕方なかったです。数値としては危険でも、症状が出る前なので点滴を大量に入れ、尿として不純物を出す以外に治療法がなかったのです。結局2泊3日の入院でしたが、退院後も疲れやすく、なかなか本調子には戻りません。

また、複数の医療関係者から、本当に危ないところだったと聞かされ、冷や汗ものでした。

声を大にして言いたいです、みなさん。健康第一です。病魔は知らぬ間に近づいてきています。私これを機に、断酒の誓いを立てました。全ては愛する家族の為、長生きに優る徳は無し。お粗末でした。

藤田 裕也



最近で驚いた事、面白かった事を紹介します（^^）

当事者の方で元々色んな装置を作って自分の暮らし易いように工夫されていた方がここ最近では、IoT化？って言うんでしょうか？パソコンやタブレット・スマホから色んな物を動かせる様に改良されてるんです！それも“今ある物に後付け”されてるんです。

例えば

照明を点灯 / 消灯
オートロックの解錠

防犯カメラも設置されていて出先でもスマホから部屋の様子を確認できるそうです！

汎用性が高そうなので発想次第でまだまだいろんな事が出来そうです。なんだかワクワクしますねー（^^）想像が膨らみますねー♪





先日、約10年ぶりに歯医者に行きました。以前より、検診してもらわねばと思いつつ、歯のどこも痛くないので、長い間放置してきました。が某YOUTUBEで虫歯の恐ろしさを痛感し、すぐに予約の電話を入れました。



基本的に歯医者好きな人はこの世に存在しないと勝手に思い込んでいますが、最近の歯科医院は清潔でおしゃれなところが多いような気がします。

当日、少し緊張しながら、「あの一予約した」と扉を開けます。受付のきれいなお姉さんが微笑んでくれます。少し癒されると同時に緊張が緩みます。処置室からは歯科独特の「ウィーン」という歯を削る音が聞こえてきます。この音がなんともいえません。



そうこうしているうちに処置室に案内されました。清潔感たっぷりのきれいな部屋です。お子さんもたくさん来るのでしょう、天井には「アンパンマン」の絵が張ってあります。処置台の横には20代と思われる白衣を着たお姉さんが優しく迎え入れてくれます。現状を知るために口腔内をPCに取り込むそうで、大きな口を開けます。

それが終了するとボスの登場です。男性のドクターです。身体がでかい！180はあるでしょうか。なんか圧倒されます。

C2やらC1やらよくわからない暗号のようなトークが3分ほどで終了です。虫歯結果 C1 が1本、C2が4本という予想以上の悪い結果が。ある程度は覚悟していましたがC3がなかったので「良し」としようと思います

それから、歯石をとるということで、さきほどの白衣のお姉さんが再登場。歯石をとるのも痛いので好きではありません。出血するイメージもあります。1本1本ていねいに歯石を取ってもらいます。その処置中にそのお姉さんから
「最低でも半年に1回は検診しないと」
「このまま放置しておくと総入れ歯になる」
「フロス（糸ようじみたいなもの）は毎晩使ってください」
「日本人は欧米人に較べると、歯を大事にしない」
まさかこの年齢になって20代の女性に説教されるとは。とほほです。その後2ヶ月ほどかけて、虫歯治療完了しました。また4ヵ月後だそう。おつかれさまでした。





【人と違う】

この言葉には、色んな意味・視点が含まれる。

でもだいたい、「空気が読めない奴」（自分含む）に向けられる。

よく、「空気を読め！」なんて怒られたりするけど、「空気の読み方指導」をこと細かに説明できる奴なんて恐らくいないし、そう言う奴程、そもそも「空気」が何を指すのか考えたこともないと思う。

とはいえ、意味も視点も人によって違うので、自分も答えはわからない。

けれども、もって生まれた。環境で学んだ。「感覚的」なものなのだと思う。

もって生まれていない、環境が整っていなかった、学ぶシステムが自分に備わっていない、奴らは「人と違う」世界で、まあまあ悩んで生きていく。

悩む中で、誰かに認められる「奴」になるより、自分で自分を認められる「奴」になれば、明日はもーっと素敵な日になるよね、ハム太郎

【批判的】

よくいる批判的な奴。

特定の人（または基本的に全員）を《信念・意味もなく》批判する奴。

きっと批判するのは、評価する（認める）より簡単だからですよね。（受け入れとけばOK！感しか出さない（出せない）奴もいますが）

かく言う自分も今この瞬間、批判しかない奴を批判する奴。今日も誰かとお互い様

【人ゴミが嫌い】

基本的に、匂いにも空気（読む方ではなく）にも視線にも、敏感だから。

でも、人混みの一番嫌いなところは、28年とちょっとしか生きていない自分にも、こんなに莫大で沢山の《過去、思い出、出来事、生活、人生史、思想》があるのに、一人一人の「それ」を想像したら、ふと恐ろしくなることがあるから。

（特に、疲れ切ったおっさんとか、やたらニコニコしてるおばはんとか）

でもこの恐ろしさには、触れてみたいという気持ちも、なくはない。

ある日突然、りんご片手に死神が「残りの人生半分の寿命と引き替えに、人の人生史が見える眼を〜…」とか打診してこないものでしょうか。

【あしがきのあしがき】

「あいつ、変なおっさんやな〜。」

育ちが風変わりなところ。というのを差し引いても、生まれてこの方、何度思ってきたことか。ところがどっこい、世の中の鏡に自分を映し出したとき、しっかり自分がそうなっている。（半分くらいは《じゅぷ》のせい。）

尾崎豊の自殺原因が何となくわかる気がする、28の夜。

盗んだバイクで走り出すには、一足遅いよね

それではみなさま。キャベツ焼きへのご来店、心よりお待ちしております♡

〈参考文献〉

1) 『抱の成り立ち』、 出版社/抱共同組合 出版地/大阪、2018 -2巻41頁より一部抜粋-

セミナー開催に寄せて

前田 雅文



昨年に引き続き、当事者が語る人権セミナー第二弾を開催することとなりました。今回は昨年末に公開され大ヒットした映画「こんな夜更けにバナナかよ」の原作者でフリーライターの渡辺一史さんをお招きし、「障害者のわがままが社会を変える、と題し地域で生きる障害当事者とトークを行います。

「障害者のわがままが社会を変える、って題を付けましたが、当時は人間としての当たり前の欲求も障害者が言えば、わがままだと言われるようなことがよくありました。

「一人暮らしがしたい」「街に出かけたい」「施設に入りたくない」……………。

私自身、介護者として障害を持つ人の生活に関わり始めたのが、大学1回生の春、今から38年前のことでした。現在、障害者事業所が障害を持つ人のことを利用者さんという表現をするのをよく耳にしますが、当時は利用できる制度もヘルパーもなく、利用できる働く場もなく、そんな表現はなかったように思います。ただ障害者が地域で生きていくために介護者を求め、そして志を共にして集まった介護者を利用するのではなく、主体的に使用して介護者と共に生活を営んでいく中で出てきた欲求（わがまま）が必要な制度をつくり、街の作りを住みやすく変えてきたのだと思っています。

当時、夜更けにバナナを買って来いという当事者はさすがにいませんでした（コンビニもそうありませんでした）が、介護に行き夜が更けるまで酒を酌み交わしながら様々な話をしたものです。そんな話の中で共に考え、共に行動してきました。

現在、障害者の生活に関わる人の大部分が契約に基づく職業ヘルパーです。（私もその一人なのですが…）プライベートで酒を酌み交わすような機会も少なく、逆にヘルパーに遠慮して欲求（わがまま）を言い出せない当事者も多くいると思います。

今の制度や社会が障害当事者にとって本当に生活しやすいものとなっているのか、今回のセミナーでは老若男女の当事者とヘルパーが壇上に上がりトークを繰り広げる中で今一度考えたいと思っています。

《追伸》 今回も7月発行予定が延びに延び、発行が大幅に遅れてしまいました。

チラホラと夏発行を意識した文章もありますが、お許し下さい。

みなさんの

ご来場お待ちしております！

障害当事者が語る人権セミナー 第2弾！
障害者の「わがまま」が社会を変える

実話にもとづく障害者とボランティアたちの
自立生活を映画化し、昨年大ヒットした

『こんな夜更けにバナナかよ』

原作者 渡辺一史さんと
障害当事者によるトークライブ



参加費無料
定員 先着150名

日時 2019年10月5日(土)
13:30~16:00

会場 瀬田東市民センター
大津市一里山3丁目16番1号

問い合わせ 特定非営利活動法人りあん
申し込み先 (地域生活サポートセンターじゅぷ)
大津市一里山2丁目2番8号
TEL.077-548-3511 FAX.077-548-3515

セミナー当日は映画の上映はございません。
セミナーをより有意義なものにするために、
参加される方は事前に視聴されることをお勧
めします。

DVDはレンタルビデオ店でも借りられます。
また、じゅぷでも何本か購入して事務所に置
いています。ご覧になりたい方はお気軽に事
務所までご連絡ください。

